

# 令和6年度 学校保健統計調査結果報告（広島県分）の概要について

学校保健統計調査は、学校における幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的として、文部科学省が毎年実施しているものである。

この報告書は、文部科学省が取りまとめた令和6年度調査の結果（令和7年2月12日公表）のうち、広島県分を取りまとめたものである。

## 1 調査の対象

調査の対象は、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校（以下「調査実施校」という。）であり、調査実施校に在籍する満5歳から17歳（令和6年4月1日現在）までの児童等の中から、発育状態調査については、文部科学省が指定する抽出方法により一部の児童等を対象とし、健康状態調査については、調査実施校に在籍する児童等全員を対象とした。

広島県における全児童等に対する調査対象児童等の抽出率は、発育状態調査が4.8%（14,107人）、健康状態調査は26.0%（76,012人）となっている。

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	計	【参考】 全国の抽出率
在学者数(a)		10,731人	140,036人	75,606人	66,514人	292,887人	
発育	調査対象者数(b)	1,180人	5,688人	4,483人	2,756人	14,107人	649,142人
	抽出率 (b)／(a)	11.0%	4.1%	5.9%	4.1%	4.8%	5.2%
健康	調査対象者数(c)	1,619人	31,200人	19,021人	24,172人	76,012人	3,190,771人
	抽出率 (c)／(a)	15.1%	22.3%	25.2%	36.3%	26.0%	25.4%

(注) 1 幼稚園には幼保連携型認定こども園を、小学校には義務教育学校（第1～6学年）を、中学校には義務教育学校（第7～9学年）及び中等教育学校の前期課程を、高等学校には中等教育学校の後期課程をそれぞれ含む。（以下同じ）

2 在学者数は、令和6年度学校基本調査の結果による。なお、幼稚園については、5歳児の幼児数としている。また、高等学校については、4学年、専攻科及び通信制の生徒数を除いている。

## 2 調査事項

学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、児童等の発育状態（身長、体重）及び健康状態（疾病・異常等の有無）を調査

## 3 調査の実施時期

令和6年4月1日から令和6年6月30日の間に実施

## 5 調査結果のポイント

### (1) 発育状態調査

#### 身長（平均値）

- ・ 全国と比較すると、男女ともに全ての年齢で全国を下回っている。
- ・ 推移をみると、男女ともに平成に入ってから、概ね横ばい傾向となっている。

#### 体重（平均値）

- ・ 全国と比較すると、男子は7歳及び10歳を除く各年齢で、女子は13歳を除く各年齢で全国を下回っている。
- ・ 推移をみると、男女ともに平成に入ってから概ね横ばい傾向となっている。

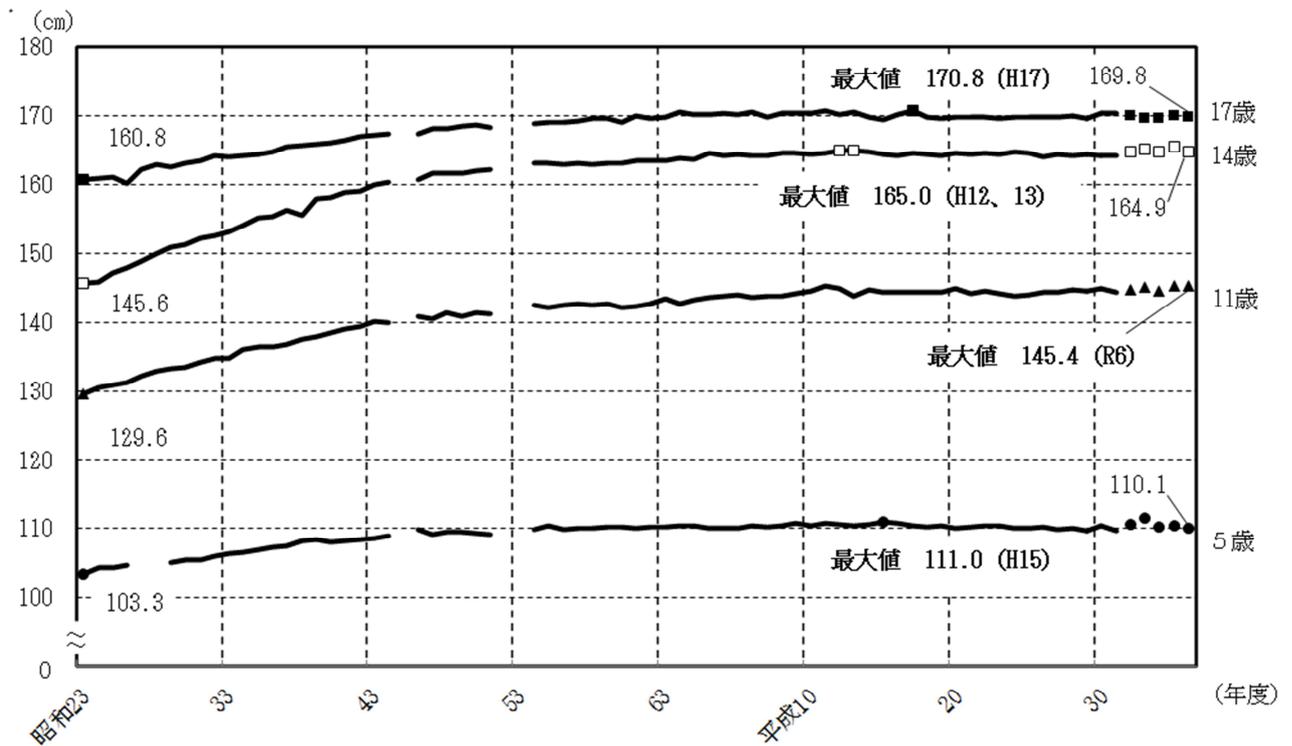
表1 年齢別 身長・体重（全国との比較）

区 分		男 子						女 子					
		身 長 (cm)			体 重 (kg)			身 長 (cm)			体 重 (kg)		
		広島県	全国		広島県	全国		広島県	全国		広島県	全国	
			A	B		差	A		B	差		A	B
幼稚園	5歳	110.1	110.6	△ 0.5	18.9	19.0	△ 0.1	109.0	109.6	△ 0.6	18.4	18.7	△ 0.3
小学校	6歳	115.8	116.7	△ 0.9	21.0	21.4	△ 0.4	115.0	115.8	△ 0.8	20.9	21.0	△ 0.1
	7	122.3	122.6	△ 0.3	24.3	24.2	0.1	121.3	121.8	△ 0.5	23.6	23.7	△ 0.1
	8	127.6	128.5	△ 0.9	27.4	27.6	△ 0.2	127.1	127.7	△ 0.6	26.6	26.9	△ 0.3
	9	133.4	134.0	△ 0.6	30.7	31.2	△ 0.5	133.3	134.1	△ 0.8	30.1	30.5	△ 0.4
	10	139.6	139.7	△ 0.1	35.6	35.2	0.4	140.4	141.1	△ 0.7	34.3	35.0	△ 0.7
中学校	11	145.4	146.0	△ 0.6	39.2	39.6	△ 0.4	146.6	147.8	△ 1.2	39.0	40.1	△ 1.1
	12歳	153.2	154.0	△ 0.8	44.8	45.3	△ 0.5	151.6	152.3	△ 0.7	44.1	44.4	△ 0.3
	13	160.2	161.1	△ 0.9	49.6	50.5	△ 0.9	154.3	155.0	△ 0.7	47.6	47.5	0.1
高等学校	14	164.9	166.1	△ 1.2	54.4	55.0	△ 0.6	155.8	156.4	△ 0.6	49.3	49.6	△ 0.3
	15歳	167.7	168.6	△ 0.9	57.9	59.0	△ 1.1	156.1	157.1	△ 1.0	50.5	51.1	△ 0.6
	16	169.0	169.9	△ 0.9	59.0	60.5	△ 1.5	157.3	157.7	△ 0.4	51.9	52.0	△ 0.1
	17	169.8	170.8	△ 1.0	60.6	62.2	△ 1.6	157.3	158.0	△ 0.7	51.9	52.5	△ 0.6

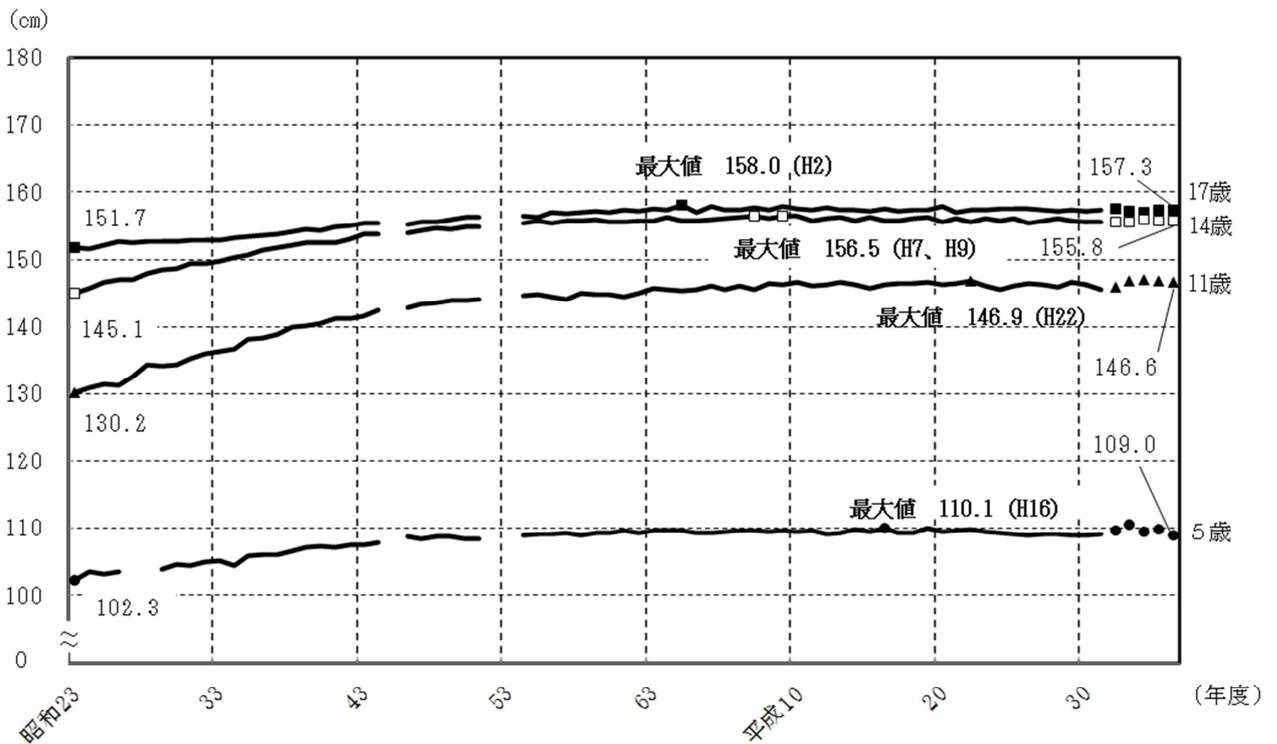
- (注) 1 年齢は、各年4月1日現在の満年齢である。(以下同じ)  
 2 「△」は減少を示す。(以下同じ)

図1 身長推移

男子



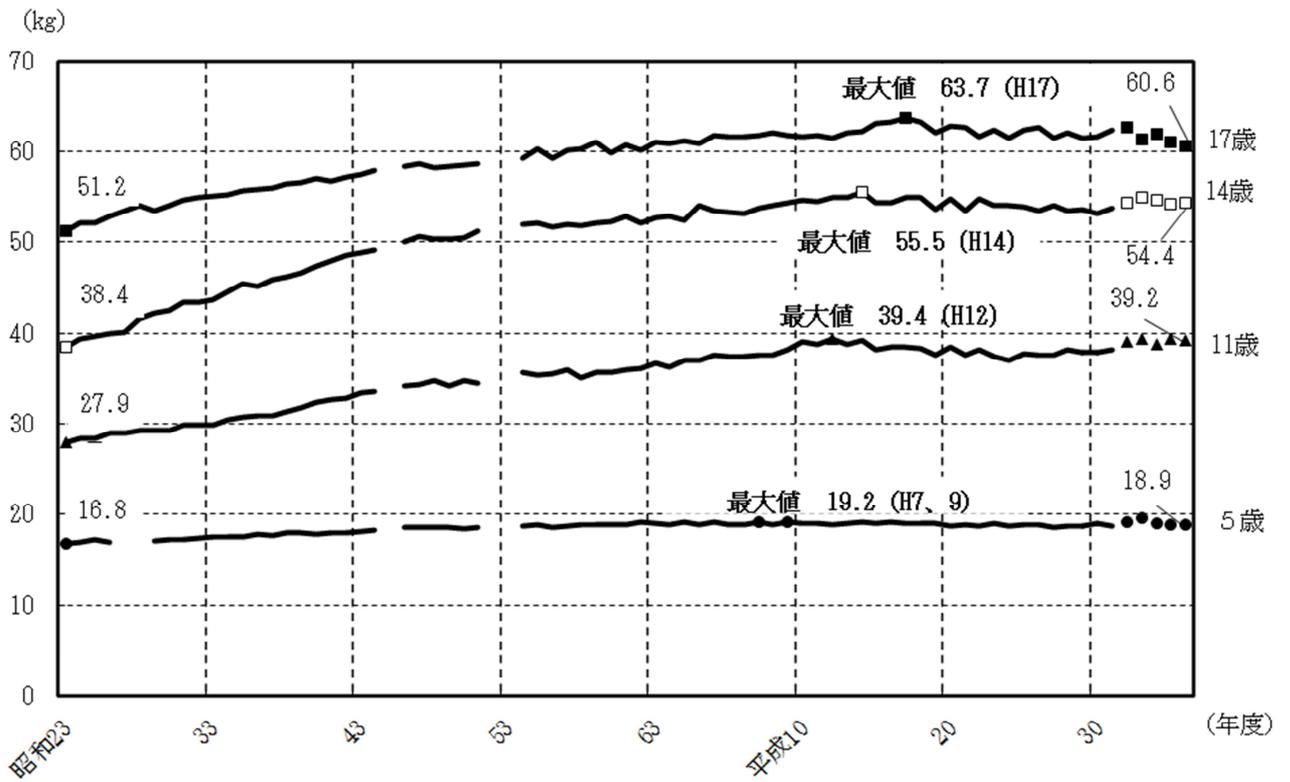
女子



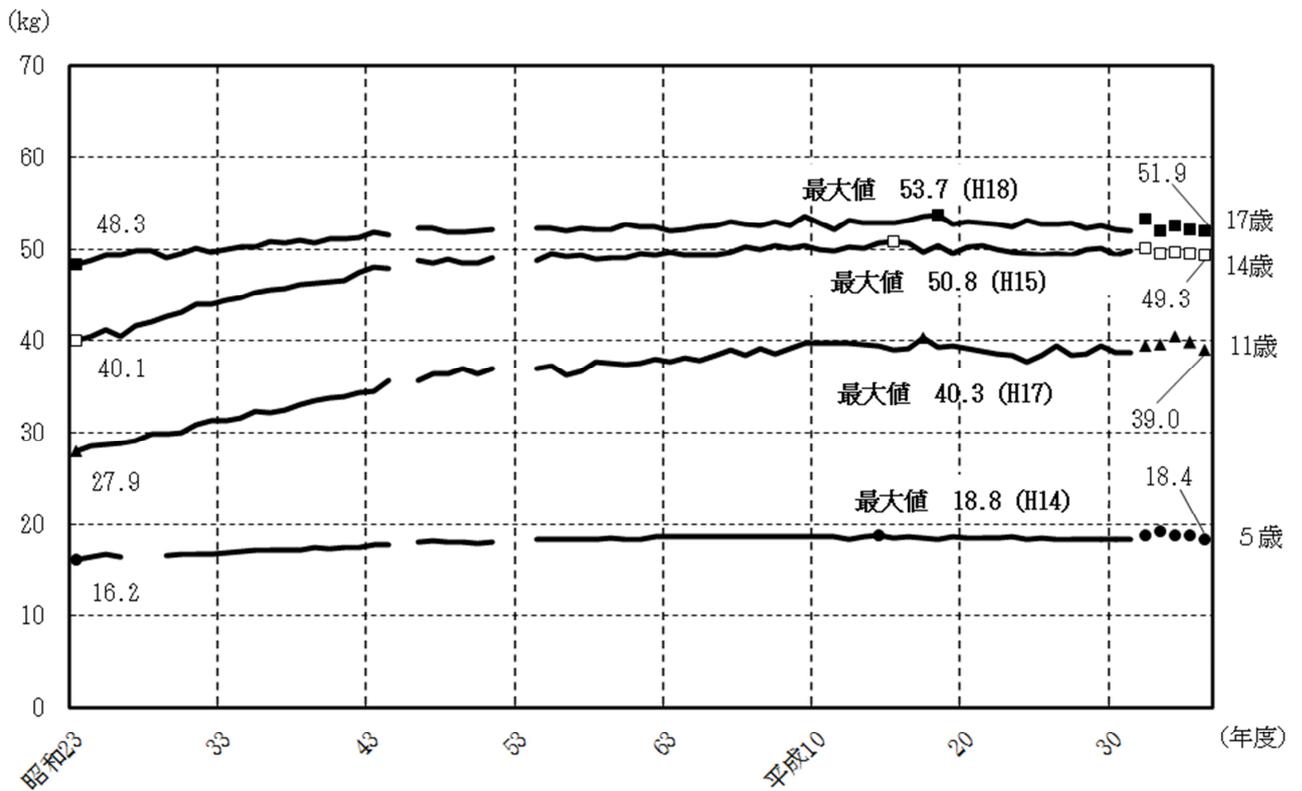
- (注)
- 5歳については、昭和27年度及び昭和28年度は調査していない。
  - 各年齢において、昭和45年度、昭和52年度及び昭和53年度については、国が集計方法を変更したため、各都道府県別の数値を集計していない。
  - 令和2年度から令和5年度の数値については、いずれの項目も調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、他の年度の数値と比較はできない。このため、令和2年度から令和5年度を除いた最大値を記載している。

図2 体重の推移

男子



女子



- (注)
- 1 5歳については、昭和27年度及び昭和28年度は調査していない。
  - 2 各年齢において、昭和45年度、昭和52年度及び昭和53年度については、国が集計方法を変更したため、各都道府県別の数値を集計していない。
  - 3 令和2年度から令和5年度の数値については、いずれの項目も調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、他の年度の数値と比較はできない。このため、令和2年度から令和5年度を除いた最大値を記載している。

(2) 健康状態調査

(ア) 主な疾病・異常の被患率等

・ 疾病・異常を被患率等別にみると、非公表となっている幼稚園を除く、全ての学校種別で「裸眼視力1.0未満の者」の割合が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」の者（処置完了者を含む。以下同じ。）の割合が高くなっている。幼稚園では、「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高くなっている。

表2 学校種別 疾病・異常の被患率等の上位

(単位：%)

学校種	順位	疾病・異常等	割合	学校種	順位	疾病・異常等	割合
幼稚園	1	むし歯(う歯)	17.0	中学校	1	裸眼視力1.0未満の者	60.0
	2	歯列・咬合	4.2		2	むし歯(う歯)	21.7
	3	鼻・副鼻腔疾患	2.9		3	鼻・副鼻腔疾患	11.0
	3	蛋白検出の者	2.9		4	歯列・咬合	6.2
	4	アトピー性皮膚炎	2.1		5	眼の疾病・異常	5.5
小学校	1	裸眼視力1.0未満の者	36.5	高等学校	1	裸眼視力1.0未満の者	70.8
	2	むし歯(う歯)	32.2		2	むし歯(う歯)	32.1
	3	鼻・副鼻腔疾患	9.6		3	鼻・副鼻腔疾患	7.7
	4	眼の疾病・異常	5.9		4	歯列・咬合	5.6
	5	歯・口腔のその他の疾病・異常	5.7		4	その他の疾病・異常	5.6

(イ) 主な疾病・異常等の全国との比較

・ 「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、小学校、中学校及び高等学校で全国を下回っている。  
 ・ 「むし歯（う歯）」の者、「ぜん息」の者の割合は、全ての学校種別で全国を下回っている。  
 ・ 「心電図異常」と判定された者の割合は、小学校、中学校及び高等学校で全国を上回っている。  
 中学校については、都道府県別集計を始めた平成18年度以降で最高（令和2～5年度を除く。）となっている。

表3 学校種別 主な疾病・異常の被患率等（全国との比較）

(単位：%)

区分	裸眼視力1.0未満の者		眼の疾病・異常		耳疾患		鼻・副鼻腔疾患		むし歯(う歯)		アトピー性皮膚炎		心電図異常		蛋白検出の者		ぜん息			
	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国		
幼稚園	※1	X	26.53	1.1	1.44	1.4	1.92	2.9	2.74	17.0	20.74	2.1	1.61	※2	…	…	2.9	1.16	0.8	1.20
小学校	36.5	36.84	5.9	5.54	4.8	6.28	9.6	12.10	32.2	32.89	3.2	3.24	3.7	2.59	0.9	0.96	2.4	2.87		
中学校	60.0	60.61	5.5	4.80	3.7	4.78	11.0	10.55	21.7	26.50	4.4	2.98	5.3	3.01	4.8	2.83	1.8	1.89		
高等学校	70.8	71.06	4.0	3.32	2.7	2.62	7.7	7.91	32.1	34.70	1.6	2.60	3.8	3.09	4.9	2.66	1.1	1.42		

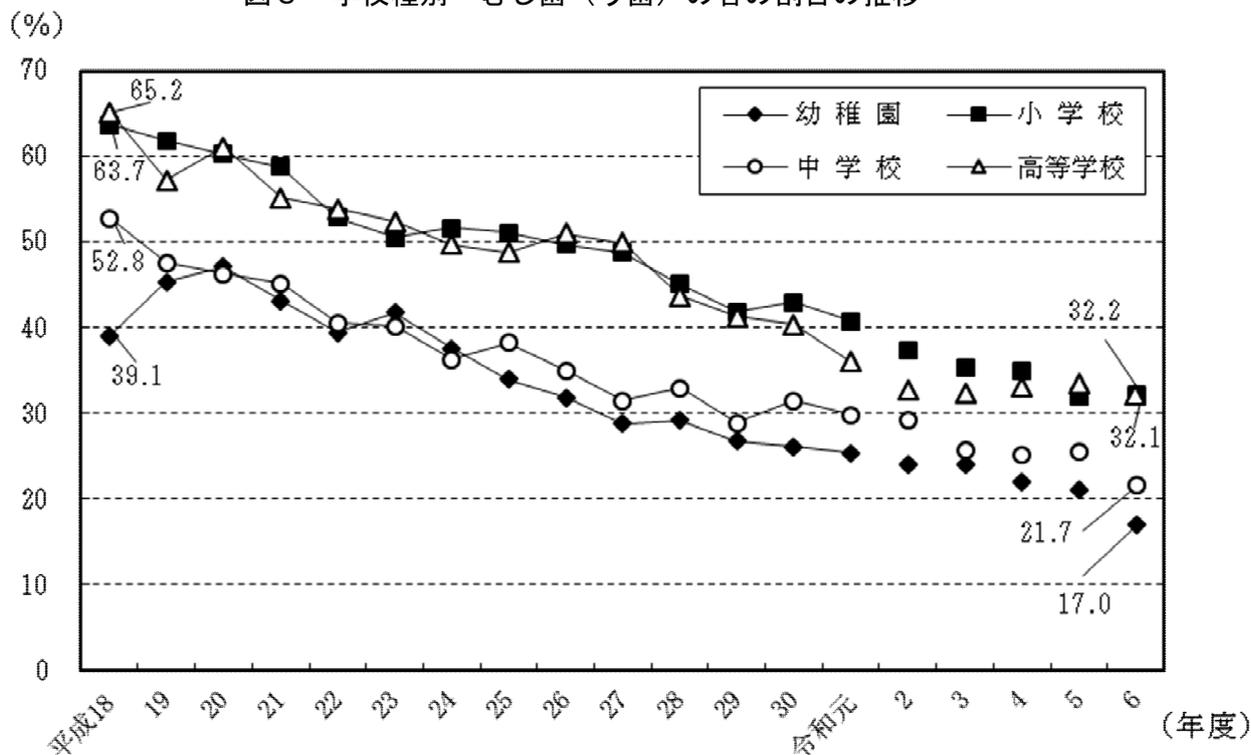
※1 「X」は、文部科学省が非公表としていることを示す。

※2 「…」は、調査対象とならなかったことを示す。

(ウ) むし歯（う歯）の状況

- 「むし歯（う歯）」の者については、全ての学校種別で都道府県別の集計を始めた平成18年度以降で最低（令和2～5年度は除く。）となっている。
- 12歳の永久歯の一人当たりの平均むし歯（喪失歯及び処置歯数を含む。）は、都道府県別の集計を始めた平成18年度以降で最低（令和2～5年度を除く。）となっている。

図3 学校種別 むし歯（う歯）の者の割合の推移



(注) 令和2年度から令和5年度の数値については、いずれの項目も調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、他の年度の数値と比較はできない。(以下同じ)

図4 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数の推移（全国との比較）

